

「映画のまち」神戸

年間100本以上の映画やテレビドラマなどが撮影されている神戸。この15年間で撮影された作品は、約2300本に上ります。なぜ神戸は撮影地に選ばれるのでしょうか。

●映画と共に歩んだまち

日本の映画発祥の地

神戸は、映画の元となった活動写真が日本で初めて公開されたまちで、日本での映画発祥の地といわれています。



▲活動写真(キネスコープ) (神戸市文書館提供)

正月には40万人が

明治38年に新開地が誕生すると、活動写真小屋が立ち並び、全国有数の歓楽街となりました。その様子は「東の浅草、西の新開地」といわれたほどで、正月の三が日には40万人を超える人が訪れました。映画評論家の故・淀川長治さんも、新開地で毎日のように映画を見て育った一人でした。



▲娯楽施設の代表だった聚楽館(しゅうらくかん)

映画とまちの復興

全盛期には、「劇場24館、商店202軒」があったといわれる新開地は、神戸大空襲で全焼しました。しかし、戦後、約1kmの通りに20軒以上の映画館が再び軒を連ね、昭和30年ごろには、「映画のまち」のにぎわいが戻りました。



▲大勢の人でにぎわう聚楽館前(昭和40年ごろ)



▲現在、新開地には喜劇王チャップリンの姿を表現した門があります

人が支える「映画のまち」

選ばれるのは人の力

神戸を訪れる撮影隊の7〜8割は、何度も神戸で撮影しているリピーターです。繰り返し撮影に訪れる理由を聞いてみると、まちの人が協力的だからという答えが、多いのです。たぐさんの人が、撮影のために営業時間外にお店を開けてくださったり、深夜の撮影にもかかわらずエキストラに参加してくださったりしています。きれいな景色や歴史的な建物があるだけでなく、市民の皆さんの協力があるからこそ、撮影地に選ばれているんです。



神戸フィルムオフィス 代表 田中 まこさん

神戸好きを増やしたい

ロケ地ツアーをすると、参加された方は意外な場所がロケ地になっていることに驚かれ、もっとほかのロケ地を巡ってみたいといわれます。市外から人が来てくださる、市民の皆さんも神戸をもっと好きになる、そんな夢のある取り組みにしたいですね。地域を活性化するには、若い人たちが愛着のある地元でやりたい仕事に就けることが大切です。神戸で映像産業が盛り上がることで、若者が神戸に住み続けることにつながるとうれしくなれ。



▲ロケ地を紹介する田中さん

一人一人が主人公

神戸が撮影地に選ばれるのは、美しい風景や建物だけでなく、そこに住む人の魅力があるからです。

今年も、このまちを舞台に、一人一人がそれぞれの物語の主人公として輝きましょう。



●観光コンベンション課 ☎322・5339、FAX 322・6138
神戸フィルムオフィス ☎303・2021、FAX 302・2946

映像の力でまちを元気に

平成7年の阪神・淡路大震災で神戸は甚大な被害を受け、観光客の足も遠のきました。復興するまちの姿を映像で全国に発信し、経済を活性化するために、市は平成12年に「神戸フィルムオフィス」を設立し、映画などの撮影誘致に取り組んでいます。

どんなことをしているの？

撮影から完成作品の宣伝まで、幅広い支援をしています。●撮影候補地の案内 ●撮影に必要な申請や地域への説明 ●エキストラの手配 ●公開放送に合わせた作品の宣伝

撮影誘致の効果

1 経済の活性化

観光客が来るほか、まちの映像が流れることは神戸の宣伝になります。



撮影隊が来るだけでも、15年間で約12億円の効果

2 魅力の再発見

住んでいる人には当たり前前の風景も、映像で見ると魅力を再発見できます。



住宅地の中にある眺望スポット

3 まちの記録

映像にすることで、まちの風景を残していくことができます。



みんなに親しまれた今はなき神戸ポートピアランド

絵になる風景があるまち

神戸には、海や山、歴史的な建物など多くの絵になる風景があるので、いろいろな場面を撮影できます。



人気ロケ地ベスト3

市街地のウォーターフロント



海・街・山、3拍子そろった景色が一番人気
主な作品 「緋い裁つ人」「阪急電車」など



主な作品 「黄金を抱いて翔べ」など



主な作品 「僕の彼女はサイボーグ」など

公会堂も撮影地

観光地だけではなく、まちの商店街や学校など身近な場所もロケ地になっています。その中の一つ、御影公会堂は人気ロケ地ベスト7で、これまでに12作品の撮影で使用されました。



▲御影公会堂での撮影風景



御影自治会連絡協議会 廣瀬 和司さん

久元市長の神戸を想う

